

独自の農法で循環型社会を目指す

【株式会社ワダケン】

植物栄養液のみを使用する農法で
旬と安心・安全を届ける

馬のまちで知られる栗東市に、農薬、化学肥料、動物性堆肥も使わず年間約100種類の野菜を育てる農園がある。

株式会社ワダケンが運営する『リアルソイルハウス』だ。ここでは、和田賢社長が長い年月をかけて完成させた新しい農法が実践されている。その農法とは、独自の技術で抽出した天然成分100%の植物栄養液『リアルソイルリキッド』のみを使って栽培するというもの。旬を重視し、露地栽培にこだわるのも特徴だ。太陽の恵みを生かし、植物本来の生きる力を引き出しながら育てる農法。そのスタイルを同社では、『和らぎ農法』と呼び、高栄養価でうま味



和田社長



公式キャラクター「わっさん」

が凝縮された
安心・安全な野菜を提供している。

通説を覆し、手間をかけずに
質と量の両方を確保

肥料や農薬に頼らない農法は、「環境や人体に優しく、作物本来の味が楽しめる」といったメリットがある一方で、「土作りを含む栽培管理に手間がかかり、収量も見込みづらい」というデメリットがある。これは通説として広く知られているが、『和らぎ農法』は見事にこの通説を覆す。「簡単で誰もがができるやり方であれば、農薬や化学肥料を使った現代農法に取って代わる状況は望みません。『和らぎ農法』は、リアルソイルリキッドを葉面に噴霧するだけ。低分子化された栄養素がダイレクトに吸収されるため、肥料を使わなくても生育しますし、土作りの必要もありません」と和田社長は説明する。

県内のある里山で、以下のようなテストを行った。圃場を3つの区画に分け、A圃場は化学肥料・農薬などを利用したスタンダードな現代農法、B圃場は有機肥



研究を重ね、栽培する作物に合わせてブレンドした「アグリブレンドアルファシリーズ」。この透明の液体に、作物が育つためのさまざまな栄養素が凝縮されている。

料と少量の農薬で栽培するいわゆるオーガニック農法、そしてC圃場はリアルソイルリキッドのみを使用する『和らぎ農法』。そこで同じ時期に同じ作物を栽培した。すると、A圃場に比べB圃場は著しく収量が落ちたが、C圃場はなんとA圃場と収量が同じだった。大層な手間もかけてはいない。これは驚くべき結果ではないだろうか。

『和らぎ農法』で持続可能な 地域農業に挑む

『和らぎ農法』に欠かせない『リアルソイルリキッド』の原料は、間引いた竹、米ぬか、もみ殻、さとうきびの搾りかすといった食料の生産過程における副産物から成っている。「市場から無価値と判断された素材を資源に変え、自然に還元する循環型

の社会づくりに貢献したい」。和田社長のこの言葉は、創業時の理念でもある。

創業から25年、試行錯誤の上に生み出したコア技術を軸に、同社は次のステージを見据える。「『和らぎ農法』のノウハウを体系化し、フランチャイズ展開を始めます。候補地は、地域特有の気候や風土が感じられる場所。そこで農家の生きがいやコミュニティーが生まれる仕組みをつくりたい」。日本の農業の多くは、過疎と高齢化が進む地域で営まれており、その持続可能性に多くの疑問が投げかけられている。同社が画期的なノウハウを生かし、地域農業に参入する社会的意義とポテンシャルは計り知れない。

DATA

株式会社ワダケン

創業は1997年。植物栄養液「リアルソイルリキッド」をコア商品に、ゴルフ場の芝管理のサポートや植物の育成に関わる業務を全国で展開している。また、『和らぎ農法』を実践し、野菜および農産加工品のブランド化を推進。「リアルソイルシステム」という独自のリサイクル理念のもと、子どもたちが安心・安全に暮らせる持続可能な循環型社会の構築を目指している。

代表取締役社長 和田 賢
栗東市総4丁目12-16
TEL.077-552-5110
https://wken.co.jp



リアルソイルハウスの直営アンテナショップ

Person

農をベースに地域を興す